

がくもん

楽問のススメリ

秋は「蒲郡市史」を



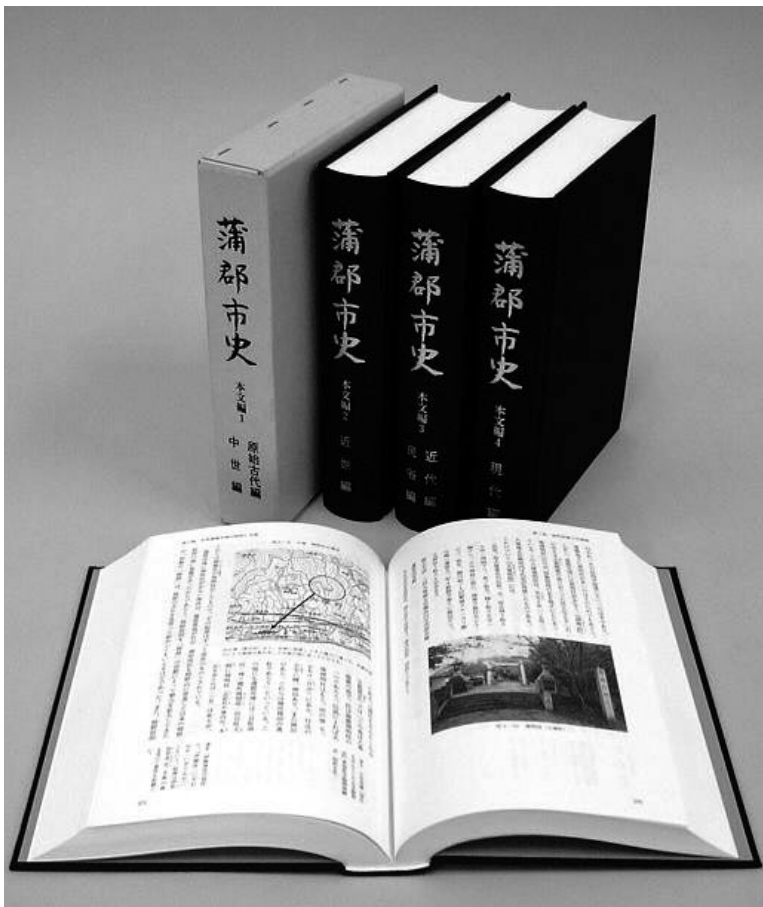
読書の秋に

今年の4月、『蒲郡市史』が発刊されました。全4巻、セットで1万円とちょっと高めの本ですが、大昔から現在まで、蒲郡市の歴史について詳しく書かれています。

皆さん、読書の秋に『蒲郡市史』を読んでみてはいかがでしょう。1巻から4巻まで合わせると、2千998ページもありますから、なかなか1日や2日ですべてを読むというわけにはいきません。でも、大変だからこそ挑戦する価値があるともいえます。

『蒲郡市史』を読む

なにしろ分量が多いので、1巻



の最初から順番に読んでいくと、途中であきてしまうかもしれない。読むのがいやになって、「積ん読(つんどく)状態」になってしまう可能性がある。『蒲郡市史』は重量にして5.1キロあります。かなり重く、しかも箱入りの厚い本ですのでとてもかさばります。高いお金を出して買ったものの、少ししか読まなくて放置したままになってしまえば、悲しい気分になることでしょう。

ですから、あまり気合いをいれて読み始めるのではなく、「まずはおもしろそうなどころから読んでみようか」といった軽い気持ちで臨んだ方がいいのではないのでしょうか。

本文は非常にたくさん項目に分かれていますので、興味を持っていただけたところが何カ所もあるのではないかと思います。

『蒲郡市史』を読みながら

『蒲郡市史』では、多くのお寺や神社、城跡、各施設などについて書かれています。読み進めながら、本文中に出てきた場所を実際に訪れてみると、蒲郡市の歴史をじかに体で感じられるのではないのでしょうか。また、何カ所もめぐり歩けば健康にもいいです。郷土の歴史について詳しくなり、しかも体も丈夫になるわけです。石二鳥でおすすです。

蒲郡市は歴史あるまちです。例えば、「徳川家康」のような歴史上有名な人物も、蒲郡市と深い関係がありました。

戦国時代、三河を足がかりにして天下を統一した家康ですが、その一族「松平家」は蒲郡市内にも